

尼崎市事業所景況調査

【 2019 (令和元) 年 7-9 月期 】

業況判断 DI は全産業、製造業、非製造業ともに改善

<調査結果のポイント>

- ◎ **業況判断 DI** 製造業は規模別、業種別のいずれも改善、非製造業もサービス業以外が改善。
- ◎ **出荷額 DI・収益 DI** 製造業で上昇、とくに大企業。非製造業もサービス業以外が上昇。
- ◎ **(原材料)仕入価格 DI** 製造業はやや低下、非製造業も低下。全体では6期連続低下。

<主要指標の結果概要>

- (1) **業況判断 DI** は、▲17.0 (9.1 ポイント上昇) で改善。来期もやや改善の見通し。
 産業別では、製造業は▲5.5 (18.5 ポイント上昇) で改善。非製造業も▲22.3 (4.8 ポイント上昇) でやや改善。
 製造業の規模別では、大企業が 0.0 (30.8 ポイント上昇) で大幅に改善、中小企業が▲6.2 (17.0 ポイント上昇) で改善。
 非製造業の業種別では、建設業が▲15.8 (14.5 ポイント上昇)、卸売業が▲10.4 (16.9 ポイント上昇)、小売業が▲47.0 (8.3 ポイント上昇) と改善。サービス業は▲18.1 (1.0 ポイント低下) とやや悪化しました。
- (2) **出荷額・売上高・完成工事高 DI** は、▲15.9 (11.5 ポイント上昇) となり、マイナス幅が縮小。
- (3) **売上単価・客単価 DI** は、▲12.5 (前回調査と同値) で、横ばい。
- (4) **(原材料)仕入価格 DI** は、26.0 (5.5 ポイント低下) で、低下。
- (5) **在庫水準 DI** は、2.5 (0.2 ポイント低下) で、横ばい。
- (6) **収益 DI** は、▲22.9 (9.2 ポイント上昇) で、マイナス幅が縮小。
- (7) **資金繰り DI** は、▲14.3 (1.7 ポイント低下) で、マイナス幅がやや拡大。
- (8) **従業員の過不足 DI** は、▲39.8 (0.9 ポイント低下) となり、横ばい。
- (9) **設備投資を実施した企業割合** は、27.5% (8.5 ポイント上昇) と、上昇。来期は横ばいの見通しです。

注1: DI は景気動向指数「デフュージョン・インデックス (Diffusion Index)」の略。「増加」(または「上昇」「好転」「過剰」) と回答した企業の比率から「減少」(または「下降」「悪化」「不足」) と回答した企業の比率を差し引いたものです。

注2: () 内は前回調査との差を示します。

<調査要領>

- (1) 調査時点: 令和元年 8月 15日
- (2) 調査方法: アンケート用紙郵送による
- (3) 業種別回収数、回収率、配布数: 右表のとおり
- (4) 全体の有効回収率: 40.8%
- (5) 事業主体: 尼崎市
 調査主体: (公財) 尼崎地域産業活性化機構

業種	回収数	回収率 (%)	配布数
全産業	408	40.8	1,000
製造業	129	48.7	265
大企業	17	45.9	37
中小企業	112	49.1	228
非製造業	279	38.0	735
化学	18	52.9	34
鉄・非鉄	34	47.2	72
一般機械	32	50.8	63
電気機械	16	45.7	35
その他	29	47.5	61
建設業	38	48.7	78
卸売業	29	50.9	57
小売業	51	30.0	170
サービス業	161	37.4	430

<本資料の問い合わせ先>

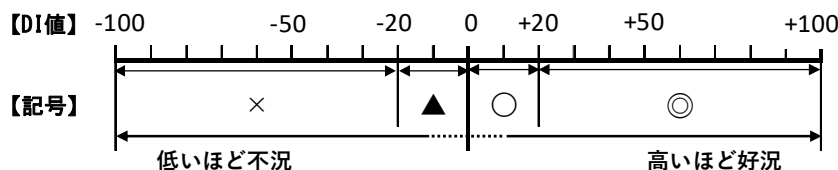
- 尼崎市 経済環境局 経済活性化課
 担当: 西岡・下司 連絡先: 06-6489-6670
- (公財) 尼崎地域産業活性化機構 調査研究室
 担当: 宮崎・井上 連絡先: 06-6488-9501 (代)
<https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>

■景況調査結果の総括（令和元年7-9月期）

業種 項目	全産業 (総計)	製造業			非製造業				
		合計	大企業	中小企業	合計	建設業	卸売業	小売業	サービス業
今回 業況判断 DI値 ※1	▲ -17.0	▲ -5.5	- 0.0	▲ -6.2	× -22.3	▲ -15.8	▲ -10.4	× -47.0	▲ -18.1
前回との 差 ※2	↑ 9.1	↑ 18.5	↑ 30.8	↑ 17.0	↑ 4.8	↑ 14.5	↑ 16.9	↑ 8.3	↓ -1.0

表のよみ方

※1：「業況判断DI値」(=「好転した割合」-「悪化した割合」)は、下図のとおり記号化しました。



※2：「前回との差」は、前回(H30.9-12月期)のDI値との差を、下表のとおり記号化しました。

記号	↓	↓	↓	—	↑	↑	↑
意味	大幅な下落	下落	やや下落	横ばい	やや上昇	上昇	大幅な上昇
DI値の差	-20.0以下	-20.0超～ -5.0以下	-5.0超～ -1.0以下	-1.0超～ 1.0未満	1.0以上～ 5.0未満	5.0以上～ 20.0未満	20.0以上

■産業別の概要

【製造業】「事業所の業況判断DI」は▲5.5（18.5ポイント上昇）で、改善しました。「出荷額DI」は大幅に改善、「収益DI」「資金繰りDI」は改善しました。「売上単価DI」はやや上昇、「原材料仕入価格」はやや低下しました。「在庫水準DI」はやや上昇しました。「設備投資」実施割合はやや上昇し、来期も上昇の見通しです。「従業員の過不足DI」はやや上昇しました。来期業況はやや悪化の見通しです。

＜規模別の業況判断DI＞【大企業】は大幅に改善、【中小企業】は改善しました。来期業況は、【大企業】は悪化、【中小企業】はやや悪化の見通しです。

＜業種別の業況判断DI＞【電気機械】が大幅な改善、【化学・プラ他】【鉄・非鉄・金属】【一般・輸送機械】【その他】は改善しました。【化学・プラ他】は改善、【鉄・非鉄・金属】はやや改善の見通し、【一般・輸送機械】はやや悪化、【電気機械】【その他】は悪化の見通しです。

【非製造業】「事業所の業況判断DI」は▲22.3（4.8ポイント上昇）で、やや改善しました。「売上高・完成工事高DI」「収益DI」はやや改善、「資金繰りDI」は悪化しました。「売上単価・客単価DI」はやや低下し、「(原材料)仕入価格DI」も低下しています。「在庫水準DI」はやや低下しました。これは「過剰」とする回答の比率が低下したためです。「設備投資」実施割合は上昇しましたが、来期はやや低下する見通しです。「従業員の過不足DI」はやや低下しました。これは不足感が上昇したためです。来期業況はやや改善の見通しです。

＜業種別の業況判断DI＞

【建設業】▲15.8（14.5ポイント上昇）で、改善。来期は改善の見通しです。

【卸売業】▲10.4（16.9ポイント上昇）で、改善。来期はやや悪化の見通しです。

【小売業】▲47.0（8.3ポイント上昇）で、改善。来期はやや悪化の見通しです。

【サービス業】▲18.1（1.0ポイント低下）となり、やや悪化。来期はやや改善の見通しです。

調査結果の詳細は、右記ホームページをご覧ください。<https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>